

ライオン
口腔保健活動
100年の
歩み

はじめに

ライオン(株)は、1891年(明治24年)に東京・神田で小林富次郎商店として創業しました。以来、120余年。私たちは、「事業を通して人々の幸せに奉仕する」という小林富次郎の創業の志を胸に、ハミガキや石鹸・洗剤、医薬品などの事業活動を幅広く展開する一方、人々の幸せに奉仕する社会貢献活動に精力的に取り組んできました。

とくに、1913年、食生活の変化に伴うむし歯の急増に危機感を抱き、人々の健康に貢献したいと願う燃えたぎるような情熱から始まった口腔保健活動は、正しい歯みがき方法の指導から、口腔衛生思想の普及、歯科検診活動、最先端の歯科診療開設など幅広い領域へと拡大。一企業の社会貢献活動として空前の

規模へと成長しました。今日では、公益財団法人ライオン歯科衛生研究所が活動の母体となり、予防歯科の普及や、歯の健康を通じた健康寿命の延伸など、時代に合わせた新たな挑戦を続けています。

本書は、こうしたライオン（株）の口腔保健活動の歴史と、それを支えた先人たちの想いをまとめたものです。創業以来、脈々と受け継がれてきた社会奉仕の精神と、トータルオーラルヘルスケアカンパニーとして、日本の口腔保健活動を牽引してきた熱い軌跡をご覧ください。

2017年5月

公益財団法人ライオン歯科衛生研究所

理事長 藤重 貞慶



100年の歩み

1913年(大正2年)から始まった

ライオンの口腔保健活動。

「学童向け活動」、

女性を中心とした「成人向け活動」、

「歯科診療活動」の3分野で

日本の口腔衛生をリードする

多彩な活動が行われた。

1932年(昭和7年)

「第1回学童歯磨教練
体育大会」開催



1922年(大正11年)

学童への「歯磨教練」開始



1913年(大正2年)

ライオン講演会スタート



1918年(大正7年)

学校教職員への
口腔衛生講座開始

1921年(大正10年)

「ライオン児童歯科院」開設



日本初の
児童専門
歯科診療所

1927年(昭和2年)

「ライオン児童歯科院」内に
「ライオン・デンタルセンター」開設



予防歯科の
原点

日本の主なできごと

1912年 大正天皇即位

1914年 東京駅開業

第一次世界大戦勃発

1920年 第1回箱根マラソン

1923年 関東大震災

1925年 ラジオ放送開始

1926年 昭和天皇即位

1928年 ラジオ体操操スタート

1929年 世界恐慌

1930年 お子様ランチ登場

学童向け
口腔保健活動

1953年(昭和28年)

13年振りに「第10回学童
歯磨訓練大会」開催



1952年(昭和27年)

全国を巡回した動く診療所
「ライオン・ヘルスカー」登場



1961年(昭和36年)

産業歯科保健活動
「さくらんぼ運動」開始



1959年(昭和34年)

母子歯科保健活動
「たんぼぼ運動」開始



女性を中心とした
成人向け
口腔保健活動

1952年
(昭和27年)

母と子のよい歯の
コンクール協賛



歯科診療活動

1964年(昭和39年)

「(財)ライオン歯科衛生研究所」設立

- 1963年 日本初の原発
東海発電所稼働
- 1958年 東京タワー完成
- 1955年 高度経済成長始まる
- 1953年 テレビ本放送開始
- 1952年 鉄腕アトム連載開始
- 1951年 黒澤明監督「羅生門」
ベネチア映画祭グランプリ
- 1949年 湯川秀樹ノーベル
物理学賞受賞
- 1946年 サザエさん連載開始
- 1945年 太平洋戦争終戦
- 1941年 太平洋戦争開戦
- 1937年 日中戦争開戦

1998年(平成10年)

マレーシアで
口腔保健活動開始



1984年(昭和59年)

海外での
口腔保健活動開始(台湾)



1965年(昭和40年)

史上最大規模で国立競技場で開催
「第22回学童歯磨訓練大会」



参加児童
7万5000人

1974年

(昭和49年)
「たんぼぼ号」で、
母と子の口腔
保健活動を強化



1964年(昭和39年)

新宿京王百貨店に
「ライオン・ファミリー歯科診療所」開設



予防、診療
研究を行う
歯科センター

2000年 (平成12年)

ハンディキャップの
ある方への口腔
保健活動に注力



- 1996年 携帯電話の普及が始まる
- 1995年 阪神淡路大震災
- 1993年 Jリーグ開幕
- 1989年 年号が平成に
- 1988年 青函トンネル開通
- 1986年 バブル経済に突入
- 1983年 東京ディズニーランド開園
- 1982年 TV「笑っていいとも!」開始
- 1975年 沖縄海洋博覧会開催
- 1973年 第一次オイルショック
- 1972年 札幌冬期オリンピック開催
- 1970年 大阪万国博覧会開催
- 1968年 川端康成ノーベル文学賞受賞
- 1964年 東京オリンピック開催
東海道新幹線開業

グローバル化する口腔保健活動

2013年(平成25年)
アジアから7カ国が参加
「第70回学童歯みがき大会」



2008年(平成20年)
インターネット配信始まる
「第65回学童歯みがき大会」



2006年(平成18年)
「キッサニア東京」で
歯科医院のパビリオン出展



2016年(平成28年)
健口美体操開始



2007年(平成19年)
高齢者向け口腔保健活動開始



2006年(平成18年)
思春期口腔保健活動開始



ライフステージ別活動の開始

2016年(平成28年)
LDHシンポジウム開催



予防歯科の習慣化をめざして

2013年
東京オリンピック決定

2012年
東京スカイツリー完成

2011年
東日本大震災

2010年
惑星探査機
「はやぶさ」帰還

2008年
リーマンショック

2005年
愛・地球博開催

2003年
宮崎駿 アカデミー賞受賞
「千と千尋の神隠し」

2002年
サッカーワールドカップ
日韓大会

目次

序章

事業を通して社会に貢献する ライオン創業物語

10

- ・ 禍福は糾える縄の如し
- ・ 人は利欲のために生きるにあらず
- ・ 小林富次郎商店の創業
- ・ 約70億円を全国の慈善施設へ
- ・ 「ライオン」のユニークな宣伝活動①

第1章

慈善券に次ぐ第二の社会貢献を 口腔保健活動の幕開け

18

- ・ きっかけは食生活の大きな変化
- ・ 歯科医師会による口腔保健活動
- ・ それは、講演会から始まった

第2章

歯科診療の発展に貢献する 歯科診療活動

24

- ・ 日本の近代歯科医療の幕開け
- ・ 12年間で約54万人の児童を診療
- ・ ひろがる、民間企業の活動
- ・ 世界をリードする歯科センターへ
- ・ 日本に児童専用の歯科医院を
- ・ 日本初「口腔衛生婦」の育成
- ・ 時代を先取る予防歯科のはじまり
- ・ さらに進化する歯科診療活動

第3章

子どもたちをむし歯から守る 学童向け口腔保健活動

34

- ・ 児童のむし歯保有率96%
- ・ 10年間・2万校・2600万人
- ・ 国による初の口腔保健活動
- ・ 焼け野原からの再出発
- ・ 待ちわびた学童歯みがき大会の復活
- ・ コラム「ライオンのユニークな宣伝活動」②
- ・ 子どもたちの心を掴むユニークな活動
- ・ 戦時下も続く歯磨教練体育大会
- ・ 復興の街に笑顔を届ける

第4章

母子へ職場へ社会へ、ひろがる活動

成人向け口腔保健活動

- 人気を集める衛生博覧会
- たんぽぽのように強く美しく
- 新しい時代に、新しい活動を

- 盛り上がる戦後の口腔保健活動
- 大好評、職場での歯科相談
- コラム「ライオンのユニークな宣伝活動」③

第5章

これからのオーラルケア

ライオンがめざす未来

- 国民運動へのひろがり
- ライフステージ別活動

- 「健口美」の実現でQOL向上を

学童期 大切な健康習慣を子どものうちに

成人期 歯周病の啓蒙活動を強化／歯周病は全身疾患につながる／歯周病対策で医療費抑制

高齢期 健康寿命の延伸をめざして／健口美体操で口を元気に

コラム「世界で評価されるライオン・歯科衛生生研究所」

- ライフステージ別の元氣習慣を提案
- 歯科衛生士が「予防歯科」の担い手に
- 情報のバリアフリー化に挑戦
- 健康寿命の延伸へ向けて
- もうひとつのテーマ「予防歯科」
- 世界へひろがる「学童歯みがき大会」
- コラム「歯みがき文化を育てるLDHの書籍」
- コラム「次代の課題に挑戦するLDHシンポジウム」

歯周病予防で世界に貢献！薬用ハミガキ・システマ

ライオン健康セミナーの歴史